

2017年 3月 7日 (火) 13:30-17:30

主催：日本建築学会建築歴史・意匠委員会 近代建築史小委員会  
会場：建築会館 308 会議室（東京都港区芝 5-26-20 tel.:03-3456-2051）  
定員：60名

## シンポジウム「近代建築史研究の最先端」第 12 回 近代（日本）× 近代（西洋）モダニズムの源流へーモリスからの展開

近代建築史小委員会ではこれまで連続シンポジウム「近代建築史研究の最先端 近代（日本）× 近代（西洋）」を6回にわたり開催してきた。西欧で生み出された近代建築とそれを受容した日本という一般的理解を越え、両者に通底する問題を共通のプラットフォームのうえで多角的な視点から再検討しようという試みである。

国別、エリア別にテーマを掲げ、また「機能」「構成」「ローカリティ」「自然」など両者に共通する近代建築の主要概念をめぐって討論を重ねてきた。今回はその最終回として、モダニズムの源流を遡り、19世紀のイギリスにおける改革運動に着眼していきたい。ウィリアム・モリス、あるいはアーツ・アンド・クラフツ運動を起点とする、近代建築の萌芽期に対する歴史的評価はすでに確立されているが、新たな観点からの読解はいまなお継続されている。この分野における研究テーマの広がりを受けて、独自のアプローチを展開する研

究者にお集まりいただき、意見交換と討論の場としていきたい。

アーツ・アンド・クラフツ運動とのちの近代建築運動との関わりはくり返し指摘されているが、まずはそうした単線的な理解を越えて、この運動のなかに潜む「非モダニズム」としての側面に着目する。また、建築家の職能確立問題を通じて、近代社会における建築と建築家のありようについてあらためて取り上げていきたい。さらに、田園都市から派生する都市理念が一方で産業都市の形成と結びついていくが、ではここ日本においては一体どのような展開の経路が開かれたのか。近代建築、あるいはモダンデザインの枠組みを形成したイギリスの〈工芸〉〈建築〉〈都市〉の各領野をめぐって、最新の研究成果をご披露いただきながら、それぞれの近代性のありかを再考していきたい。

【1】主旨説明（13：30～13：40）：**梅宮 弘光**（神戸大学）

【2】各論発表（13：40～15：10）：

- （1）**杉山 真魚**（京都大学）  
アーツ・アンド・クラフツ運動にみる非モダニズムの諸相
- （2）**渡邊 研司**（東海大学）  
19世紀イギリスにおける建築家の職能確立をめぐって—AA スクールを中心に
- （3）**角 哲**（北海道大学）  
産業都市の形成にみる近代の萌芽

— 休憩（15：10～15：20） —

【3】パネル・ディスカッション（15：20～16：50）：

モダニズムの源流へーモリスからの展開

司 会： **藤原 惠洋**（九州大学）      パネリスト： 各論発表者

【4】まとめ（16：50～17：00）：**田所 辰之助**（日本大学）

□ 参加費： **会員 1,500 円 会員外 2,000 円 学生 1,000 円**

□ 申込方法：Web 申し込み

<https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=1716> より  
お申し込みください。

□ お問い合わせ：日本建築学会事務局  
事業グループ 一ノ瀬

E-mail: [ichinose@aij.or.jp](mailto:ichinose@aij.or.jp)  
Tel: 03-3456-2051

**【建築 CPD 3 単位】**